私が技術士に合格するまで

取得した資格：技術士（水産部門（水産土木））
資格取得年度：令和元年度
宮地（みやじ） 健司（けんじ）*

受験の動機・経緯

技術士及び技術士試験とは日本技術士会のHPによると「科学技術に関する技術的専門知識と高等の応用能力及び豊富な実務経験を有し、公益を確保するため、高い技術者倫理を備えた優れた技術者の育成を図るための、国による資格認定制度」となっています。

このような理念はともかく、技術士等の各種資格は公共事業の入札時に評価の過程で加点となり落札に有利に働きます。要は公共事業という仕事にありつくためには持っておいた方が良いということになります。

私は20数年、主に漁港・漁場整備を舞台として公共事業に携わってきましたが、年を取るにつれ定年退職という言葉も頭をよぎるようになり、退職後も仕事にありつこうとするなら、何かしらの資格を持っておいた方が良いのではと思うようになりました。要は老後の生活の足しに何か資格が欲しいと思い至ったのが私の正直な受験動機です。

またこれまでの経歴のうち何年かは国土交通省の方でお世話になりました。国土交通省では技術系の資格取得を組織を挙げて推奨しており、自身は何も資格を持っていないにも拘らず部下に資格取得を勧めなければならない事態に陥ったのも受験の契機となりました。

筆記試験における傾向と対策

取りあえず受験対策の定番で過去問を見てみます。幸いなことに純粋な知識を１枚の回答用紙で答えるもの以外は、農林水産物の輸出、ICTなど、問題はその時に行政として取り組んでいるものとなっています。流行に流されすぎでは、と思う一方で問題を予測するという点では助かりました。

実際に過去問をやってみます。小論文形式となる筆記試験ですが、試験時間と回答用紙枚数から１枚600字の原稿用紙を手で書いて30分程度で埋めなければならないようです。やってみた結果、考えながら書いていたのでは全く時間が足りないことが分かりました。書き上げたものも質問に対する答えになってなかったり、そもそも文章になっていなかったりと散々なものでした。

結論として、①問いを想定→②時間をかけよく考えて回答を作成→③実際に手で書いてみる、という作業を繰り返すこととなりました。筆記試験は原稿用紙で１枚もの、２枚もの、３枚もの（２問）と計４問を解くことになりますが、合格までに結果としてそれぞれに数個の問いと回答を作ることになり、問いが出尽くした後は、時間とやる気を見ながら30分で600字を書くトレーニングを繰り返していました。

トータルの勉強時間は、「（休日に１～２時間程度）×（試験までの半年間）×（２回（=受験回数））」といったところでした。

＊水産庁 漁港漁場整備部 整備課 海外水産土木専門官

口頭試験における傾向と対策

私は合格までに２回受験することになったのですが、口頭試験は試験方法が変わったタイミングで初めて受けることになりました。

これまで口頭試験は、申込書に書いた「実務経験の詳細」に基づき質問されると聞いていたので、資料を読み詳細な数値などを把握するといった準備はしていました。

一方で試験の仕組みが変わるということもあり、改めて「技術士第二次試験実施大綱」を見てみると、口頭試験で聞くこととして、

Ⅰ　技術士としての実務能力

　１．コミュニケーション、リーダーシップ

　２．評価、マネジメント

Ⅱ　技術士としての適格性

　３．技術者倫理

　４．継続研さん

と書いてあります。これだけ見ても何を質問してくるのかよく分かりませんでしたが、取りあえずこれまでの職務経験から適当に話すしかないのかな、とぼんやり考えながら当日に臨みました。

当日は申込書の業務経験の内容は聞かれず、これまでの職務経験でマネージメントを発揮した場面、リーダーシップを発揮してきたこと、など大綱に基づき質問がありました。これまでの職務経験から答えてはみましたが、出来は散々だったのではと思います。面接官から「技術士倫理綱領」というものがあると教えてもらったことは良い思い出になりそうです。

受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

私自身、技術士という制度に疑問がないわけではないですが、公共事業の分野で生きるものとしては避けられないものと割り切って臨みました。受験対策や受験のタイミングはまさに人それぞれかと思いますがこの体験記が何かの参考になれば幸いです。

【著者紹介】　宮地　健司（みやじ　けんじ）
平成９年九州大学大学院工学研究科（土木）修了、同年水産庁入庁。国土交通省河川局海岸室係長、水産庁研究指導課課長補佐、北海道開発局網走港湾事務所長、水産庁整備課課長補佐、三浦市経済部水産担当部長等を経て現職。

Dr.クマの“健康のヒント”

今度はサル痘か

医学の歴史は感染症との戦いであったし、その戦いは現在も続いている。WHOが緊急事態宣言を出したサル痘はアフリカで稀にみられる感染症だったが、発生が増加しており、これまでみられなかった地域にも広がっている。日本ではまだ発生していないが、グローバル化された今日の状態では発生する可能性は捨てきれない。サル痘の原因ウイルスは人の天然痘ウイルスと類縁であり、天然痘ワクチンが有効である。もともと天然痘に対する種痘は牛痘ウイルスから作られていたこともあり、類縁ウイルスに有効なのはうなずけるが、問題は最後の天然痘ワクチン接種が1976年だったということだ。1975年生まれの人はぎりぎり接種を受けた可能性があるが、それ以降生まれた人は免疫を持っていない可能性が高い。となると、若い人たちの間での流行が気になるが、人から人への感染は濃厚接触者のみに見られており、新型コロナのような高い感染性はないと考えられている。また、海外ではバイオテロに備えて治療薬が開発されているし、感染後のワクチン接種も有効だというデータもある。これらの薬は日本では承認されておらず、今すぐに使用はできないが、もし流行の兆しがあった場合には今回の新型コロナの時と同様に何らかの手段で使用できるようになるだろうと思っている。今のところはあまり心配せず、いつものように手洗い、マスク生活でいることだと思う。

北里大学医学部 教授　熊谷 雄治